

# I 小学校部会

## 国語科部会(低学年の部)

**研究主題** 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成  
～単元を貫く言語活動を通じた指導のあり方～

### 1 主題について

豊かな表現力を身に付けるためには確かな思考力(論理的思考)の深まりが必要であると考え、このテーマを設定した。単元を貫く言語活動を通じた指導のあり方を探ることによって、思考力を深める学び合いはどうかあればよいかに焦点を当て、授業研究に取り組むことにした。

### 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題確認・年間計画作成	6月29日	交流授業(城西小学校)
9月25日	指導案検討会(城西小学校)	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会(城西小学校)

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月31日(水) ・会 場 城西小学校
- ・単元名 2年「ふたりはともだち」シリーズを読んで、好きなお話を紹介しよう。
- ・授業者 雄鹿 成子

#### ① 授業者から

- ・単元を貫く言語活動を意識し、より効果的に行うために、単元構成を工夫し、音読劇ではなく並行読書の単元として組み替えて授業を設定した。(スイミーも同様に行った。)  
「読みのスキル」に従って、子どもたちに全19話を読ませている途中である。並行読書を通して登場人物の人柄もとらえさせたいと考えている。
- ・今日は、なぜそのお話が好きなのかという理由を発表させた。ただし、子どもがシートに書いた理由は3つあるため、教師が意図した理由ではない方を発表した子どももいた。そのため、お話が好きな理由とお話の内容がかみ合っていない点があった。
- ・発表したいという意欲を引き出すように低位の子どもにも発言させた。一方で、登場人物の人柄に触れていたり、自分の課題をもっていたりした子どもの意見を引き出せなかった。

#### ② 協議

- ・教師の受容的な口調や態度が、子どもたちの発表したい、話をきいてもらいたいという意欲を引き出していた。ただ、子どもたちの発表を子どもたち同士で受け止め、話し合う活動があればなおよかった。
- ・感想交流させるための具体的な手立てや子どもたちのゴールの設定を明確にしたい。友達の発表を聞いて読みたくなった理由に「登場人物の人柄」「自分が読んだお話との共通点や相違点」等を盛り込みたい。
- ・感想交流時の教師の発問を工夫したい。今日は「友達と似ているところは?」「読み比べて似ているところは?」だった。「似ている」という言葉が続き、子どもに迷いが見られた。
- ・並行読書という単元を貫く言語活動を入れているのは、とてもよいと思う。低学年の場合は、一つのお話を(ここでは「お手紙」)軸として、比較検証するとより効果的になる。



【ペアで好きなお話を紹介し合う様子】

- ・並行読書では、子どもたちの読むスピードが異なるが、たとえ全部読破した子どもであっても、友達の紹介を聞くことによって、新たな読書意欲がかき立てられる。その点を意識しながら、感想交流の場面を指導していきたい。
- ・全員に発表させたいという教師の願いは理解できるが、振り返りの場面では、本時のねらいに迫る「登場人物の人物に触れた」「自分の課題をもった読書への意欲」について、書いている子どもを指名発表させ、次時へつなげたかった。

## (2) テーマ研究

部会テーマを受け、単元を貫く言語活動の実践事例についてグループで紹介し合った。その実践例として、音読劇、心情グラフ、日記、図鑑、クイズ等が挙げられ、誰かに紹介するという活動も合わせて行うとより有効であるという報告がなされた。また、どのような言語活動であっても、単元を通して付けたい力を明確に見据え、常に子どもの姿と照らし合わせながら進めていくことが大事であると確認し合うことができた。

## (3) 指導助言(山口 史人 指導主事)

### 【授業について】

- ・教師の生徒指導的な配慮が行き届いた学級であり、子どもたちが安心感をもって、自分の思いを述べることができているのが、すばらしいと感じた。
- ・子どもが理解しやすいように、学習活動の流れを提示したり、指示したりしていた。また、「交流」等の用語の共通理解もしっかりとおさえていた。
- ・「同じ作品でも、人によって受け止め方が異なる。」という子どもたちの発見や気づきこそが、読書の楽しみを味わっていたことに他ならない。それを友達と伝え合える感想交流の活動は有効だった。
- ・全体で自分が好きなお話を紹介し合う活動では、教師が読んで教師の意図(流れ)にのせてしまった。板書構成を視覚的に工夫して、子ども同士の意見を引き出し、補い合えるようにしたい。
- ・本時の学習を振り返る場面では、活動を振り返った子どもがいた。めあてに対する振り返り(まとめ)としたい。指導案の書き方もあると思うが、本時の目標とまとめの整合性「友達の紹介を聞いて本を選ぶことができる。」をしっかりとおさえ、本時の評価(どの指導事項をねらったのか)を頭に入れて行うようにする。

### 【テーマについて】

- ・参考になる単元構成であり、「好きなお話を紹介する。」という単元を貫く言語活動がよい。そこから、「自分と重ねて」「他の話と比べて」という指導事項エ、オ、カにつながっていく。
- ・「自分のお気に入りを探す楽しさ」が導入にあった。そこから好きなお話を「想像を広げて読む」すなわち「主体的に読む」という関心の高まりを最後までもち続けることができる。
- ・シリーズ読み(並行読み)では、①たくさんの本を選ぶために読む ②読書量の確保の2点が意識される。これに「比べ読み」がプラスされて子どもの中に広がりや深まりが生まれていく。
- ・ねらいはよかったが、読みたくなった理由を明らかにできるような工夫をしたい。お話の紹介を通じて、自分の変容が確認できるようなねらいの内容にしたい。自分の疑問を解決する課題から、「問いを発する子ども」へとつなげていきたい。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・単元を貫く言語活動を通じた指導や手立てについて活発な話し合いがなされた研修だった。
- ・言語活動の充実のための5つのポイントが示され、マトリックス型の年間指導計画等について研修を深めることができた。

### (2) 課題

- ・単元を貫く言語活動を漠然と選択するのではなく、子どもの主体的な意識を生かし、単元で付けたい力を見極め、単元を貫く言語活動(三次から)を考えることが必要である。

# 国語科部会（中学年の部）

**研究主題** 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成  
～思考を深める学び合いを通して～

## 1 主題について

自分の思いや考えを適切な言葉で表現し、互いに表現し合うことができる力を育てたいと考え、本主題を設定した。思考を深めるための学び合いはどうかあればよいのかに重点を置き、授業研究に取り組むことにした。

## 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（川口小学校）
8月22日	指導案検討会（川口小学校）		

## 3 研究内容

### (1) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月31日（水） ・会 場 川口小学校
- ・単元名 3年 食べ物はかせになろう「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」
- ・授業者 安保 千春

#### ① 授業者から

- ・本時は、学習形態をペアから全体に変えた。ペアでの話し合いはまだ十分にできていない。
- ・発問があまりよくなかった。つかむ段階では、内容の工夫については分かっていたが、説明の仕方について理解が十分でなかった。また、主発問で「筆者の説明の工夫」を見つけるという強調がたりなかった。
- ・文章全体に目を向けさせるために文章構成図を掲示したが、十分に生かせなかった。

#### ② 協議

- 〈視点 ペアでの話し合いは、説明文の書き方の工夫を見つけ出すために有効であったか。〉
- ・子どもたちは、何を書けばよいのか迷っていたので、例があるとよかった。掲示資料の黄色いふきだしがヒントになったのではないか。短冊を先に使うとよかったと思う。
  - ・「ひみつブック」の参考にするのだということで、めあての言葉を逆にしてもよかった。
  - ・「順序」「まとめ」などの視点があればよかった。ペアになったときに話せなかったので、「内容の工夫」と混同していたのではないか。
  - ・前時までの学習で分かったことの振り返りで時間がかなりかかり、盛りだくさんだった。今日の評価は「根拠を明確に」なので、絞っていけばよかった。
  - ・ペアの話し合いは、自分の書いたことを説明するだけでなく、互いに話し合うことによって、新しい考えができるためであるということ、子どもが分かっていたら効果的である。
  - ・ペアでノートを見せ合い、書き加えていた。続けていけばよくなっていくと思う。
  - ・つかむ段階のリレー発言は活発になりよいが、大事な場面は教師が見取って発言させたい。
  - ・「イルカのねむり方」と違って大事なところを掲示すると説明の工夫のヒントになる。
  - ・実践の紹介～ゴールを「ひみつブックを作る」ことにし、単元を貫く言語活動を大切に

- ている。「説明名人」になるための「技」を全体の中からを見つけるのはたいへんなので、1時間に1つ見つけるようにし、全部の工夫を6～7時間かけて見つけるようにしている。
- ・子どもたちから出た「説明文を書くための工夫」は、一つ一つ検証が必要ではないか。
  - ・本時、本文での検証はできていなかったが、実態からはよくがんばっていた。授業者は、子どもたちに大豆を生のも、ゆでたもの、粉にひいてきな粉にしたものをさわらせていた。これまでの授業で本文と結びつけているところできていたと思う。
  - ・「書き方の工夫」は出ていたが、ノートに書いていない子どもたちもいた。書く時間あれば、よりよい「ひみつブック」につながるのではないか。
  - ・ある子どものノートに、「わくわく感をもたせる書き方」とあった。時間がなかったので工夫として検証できなかったが、これまで日々、集中して取り組んでいたことが伺えた。
  - ・ペアトークが上手にできていたところでは、教科書を使って「わくわく感」を説明していた。時間が確保されていれば、子どもから出て確認できたのではないか。

## (2) テーマ研究

テーマを受け、各校の実践を紹介したり、意見を交換したりした。

## (3) 指導助言（大館市立南小学校 今泉 静子 校長）

- ・リレー発言は、自分の言葉でどんどんつなげていて、日頃から鍛えられていた。
- ・これまでの取り組み、積み重ねがしっかりできていた。教室環境や子どもたちのノートなどから、毎時間どの子がどこまでできているのかをつかみながら取り組んでいると分かった。
- ・本時は、次の書く活動につながる読みのまとめの時間で、たくさんの情報をどう取り出すのか、何を求めているのか、指示の仕方を大切にしたいところだった。また、本時の評価の「根拠を明確に」と結びつくように大事にしたい場面である。
- ・単元の目標に「話すこと・聞くこと」も入っていた。話し合い活動を大切にしたいと考えているようなので、単元指導計画の中に「話すこと・聞くこと」も観点に入れてもよかった。本時の評価規準を二つにしてもよかったのではないか。
- ・感想発表の中に「説明文の書き方が分かった。」とあったので、これまでの積み重ねが感じられた。単元を貫く言語活動がされており、力をつけてきている。
- ・豊かな言語活動は、すべての教科の基本である。文部科学省の「言語活動の事例集」には、各教科の事例があり、参考になる冊子である。国語をもとに他教科でも取り組んでほしい。
- ・川口小の3年生の「ひみつブック」を読みたい。今後の授業の参考にしていきたい。
- ・45分の授業の中で終わりはどうあればよいのか、単位時間が実りあるものになるためにラストから考え、取り組んでいく方法もある。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・ペアでの効果的な話し合いのさせ方、単元を貫く言語活動の設定の仕方、単位時間のねらいを達成させるための手立てや支援について協議や実践紹介ができた。

### (2) 課題

- ・文章の中から根拠を明らかにしてどのように話し合いをさせるのか、本時のねらいを達成するために、ゴールから手立てを考えることなどの工夫が必要である。



【ペアで話し合う様子】

# 国語科部会（高学年の部）

**研究主題** 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成  
～思考を深める学び合いを通して～

## 1 主題について

自分の思いや考えを適切に表現し、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う子どもを育てる指導の在り方を研究するため、昨年度に引き続き本主題を設定した。確かな言葉の力を身に付けさせるための指導、思考を深めるための単元構成や学習過程等に重点を置き、授業研究に取り組むこととした。

## 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（東館小学校）
10月3日	指導案検討会（東館小学校）		

## 3 研究内容

### (1) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月31日（水） ・会 場 東館小学校
- ・単元名 5年 説明のしかたについて考えよう「天気を予想する」
- ・授業者 成田 正子

#### ① 授業者から

- ・教科書を使わず、教材を「問い」ごとに構成し直したプリントを用いた。
- ・教材文に対する児童の初発の感想では、初めて知る内容であるということが多かった。また、慣れない言葉が多く難しいという感想もあった。
- ・子どもの実態から、資料を用いていない問いについて考える活動を、本時はカットした。
- ・発問がうまくいかず、子どもたちの発言をうまく引き出せなかった。豊かに表現させるため、どのような発問の工夫があるだろうか。

#### ② 協議

〈児童の考えを深め、思考力を高めるための効果的な学習活動と発問の工夫〉

- ・子どもたちは、学習課題の「意図」という言葉にひっかかっていた。前時までの読みで一つの言葉の意味を十分理解させることが必要。
- ・サイドラインや矢印を引く活動は文と資料を関連付けられ、よかった。言葉と資料をしっかりと結び付けると、さらに文の理解につながる。
- ・資料は問いごとのシートになっていたが、教科書と違って白黒だったので分かりにくかった。
- ・ねらいに「説明することができる」とあるが、子どものどのような姿であればよかったか。



【資料を用いた筆者の意図を考える】

〈単元で付けたい力に合わせた言語活動と単元構成の工夫〉

- ・グループでの話し合い、学び合いの活動があれば子ども同士で考えを深められた。
- ・ノートやシートを活用し、思考の足跡を残すとよい。
- ・説明文で表現された内容を子どもが理解できるように単元構成を工夫するとよい。

(2) 指導助言（小林 寿 主任指導主事）

- ・ワークショップ型の協議が今日の成果であった。深まりのある協議であった。
- ・今日の授業は、川を渡らせる時、浅瀬の部分をケガをさせないように渡らせ、対岸に辿り着かせたような授業であった。子どもたちはもっと力がある。それを引き出すために時には深みに落とし、自分でもがき苦しんで辿り着けるような授業にしたい。
- ・教師の一言対子どもの一答の授業に終始してしまった。グループに任せ、練り合いや学び合いを教師が仕組む方法もあった。
- ・本時の読み取りの集約は「分かりやすく伝える」こと。「よりいっそう分かってもらうため」の「よりいっそう」をもっと追究することが必要。この説明文では、図、表、グラフ、写真が出てくる。これらをまとめて「資料」というが、使うねらいや効果が違う。文章に書かれていることを裏付けるものがグラフや表で、文章に書かれていないこと（表現しにくいもの）を補うものが図や写真である。このように教師が分析し、それぞれの資料の効果について深く追究させることで読みに深まりが出てくる。
- ・単元の目標とする力を付けるために言語活動を設定すること。例えば、単元を貫く言語活動の例として、「図、表、グラフを用いて、説得力のある文を書こう」と設定する。すると本教材文は、「図、写真、表、グラフがどう効果的に使われているか、分析的・目的的に読む」という位置付けになる。その際、「文章構成や要旨を読み取る力を付ける」活動は別の教材で行うこととする。こうして年間を通してバランス良く読みの力が付くよう年間指導計画を作成するとよい。
- ・グループごとに一つの資料を徹底的に調べさせ、他のグループに分かりやすく説明させる方法もある。
- ・物語文や説明文は、教材をどう教えるかではなく、教材を通してどんな読みの力を付けるかという、分析的・目的的手法で読ませることが必要である。
- ・子どもたちの言語の種類（語彙）を増やすことを担う教科が国語である。語彙の多い子どもは思考が深まる。豊かな表現や多様な考えは、語彙を増やさないと育たない。そのために読書活動を推進すること。人間性や豊かな情操を養うことにもつながる。
- ・単元を構想する際、「逆算の発想」という考え方もある。[ゴール(付けさせたい力)を決める→どんな言語活動で実現させるかを決める→学習課題（スタート）を決める]

## 4 成果と課題

(1) 成果

- ・ワークショップ型グループ協議を取り入れたことで、協議内容に沿った成果と課題についての研修を深めることができた。
- ・単元構成の工夫や言語活動の位置付けの仕方について学ぶことができた。

(2) 課題

- ・身に付けさせたい力を明確にさせた上での単元構成や1時間の授業の組み立て方。
- ・単元を貫く言語活動の効果的な設定。